

第6回豊田市総合計画審議会 会議録

【日 時】 令和6年8月19日（月）午後2時00分～4時00分

【場 所】 豊田市役所南51会議室（南庁舎5階）

【出席者】

（委 員）

浅野 智恵美	市民公募
大澤 正彦	日本大学文理学部情報科学科准教授 次世代社会研究センター長
大橋 宏	豊田信用金庫理事
加藤 真二	（一社）豊田加茂医師会会長
加納 実久	新とよパークパートナーズ会長 名古屋工業大学研究員
木村 匡子	関西大学社会学部准教授
佐伯 英恵	（公財）豊田市国際交流協会理事長
澁澤 寿一	NPO法人共存の森ネットワーク理事長
鈴木 聖人	（一社）豊田青年会議所理事長
曾根 篤	連合愛知豊田地域協議会事務局長
永田 祐	同志社大学社会学部教授
中野 貴博	中京大学スポーツ科学部教授
野崎 健太郎	豊田市PTA連絡協議会顧問
畑中 直樹	大阪大学大学院工学研究科招聘教員
牧野 篤	東京大学大学院教育学研究科教授
松本 幸正	名城大学理工学部教授
安田 明弘	（社福）豊田市社会福祉協議会会長
山岡 正博	豊田商工会議所専務理事
鈴木 学	豊田市副市長
辻 邦恵	豊田市副市長

（計20人）

【欠席者】

（委 員）

阿垣 剛史	豊田市区長会会長
稲垣 令一	豊田市高齢者クラブ連合会会長
大河原 真吾	あいち豊田農業協同組合常務理事
弘中 史子	中京大学総合政策学部教授
丸井 康弘	市民公募

【理事者】

太田 稔彦	（豊田市長）
（事務局） 都築 和夫	（企画政策部長）
青木 勉	（企画政策部副部長）
阿久津 正典	（企画政策部副参事）

野依 真人	(企画課長)	花田 潤治	(都市計画課長)
丹羽 広和	(企画課副課長)	大光 圭二	(都市計画課副課長)
宮川 恭子	(企画課副主幹)	今村 広和	(都市計画課主幹)
上山 輝	(企画課担当長)		
古田 祥久	(企画課主査)		

【傍聴人】 10名

【議 題】 1 会長あいさつ

2 議題

(1) 【資料①】策定の全体スケジュールについて（確認）

(2) 【資料②・③】第9次豊田市総合計画（案）について（議論）

(3) 【資料④・⑤】豊田市デジタル田園都市国家構想総合戦略の策定について

【参考資料】これまでの議論の状況等

3 その他

今後のスケジュール

・ 第7回 令和6年10月31日（木）14:00～

【議 事】

■ 会長あいさつ

（会長）

こんにちは、暑い中みなさまご苦労様です。私から挨拶をする前に、豊田市長に一言ご挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いします。

（市長）

こんにちは。お忙しいところありがとうございます。本審議会も迫り込みの段階に入ってきております。委員みなさんの思っていること感じていることについて、議論が振り出しに戻っても構わないとの思いですので、忌憚のないご意見をお願いします。

（会長）

ありがとうございました。では、私から挨拶をさせていただきます。この3週間近く雨が降っていないような状況もあり異常気象を実感しています。それに関連して、経済諮問会議の委員と話をする機会があり驚くことができました。その会議の中で、弱者に経済的支援はする必要はなく、強者にお金を回さないから日本が弱体化しているという発言がありました。19世紀の話なのかと耳を疑いましたが、この日本の状況下においても拡大再生産や人口が増え、量的に拡大する経済が良いというような過去の感覚の方がいて、私たちもそのような感覚がどこに残っていないかと反省する機会になりました。

ミライ構想、ミライ戦略において、前世紀的な感覚がないか改めて洗い出し、新しい社会を構想することが必要だと思います。原案について議論いただきながら、豊田市らしいものを作っていくため、今日もぜひとも活発な議論をお願いしたいと思います。よろしく

お願いします。

■ 委員交代の報告 新委員等の紹介

安田 明弘 （社福）豊田市社会福祉協議会会長

山岡 正博 豊田商工会議所専務理事

辻 邦恵 豊田市副市長

■ 出席の確認

・オンライン参加（大澤委員、野崎委員）

・5名の委員が欠席

（会長）

それでは議事に入らせていただきます。式次第をご覧ください。議題が3つあり、最初が資料①全体スケジュールの確認です。2つ目が、資料②と③の次期総合計画案です。3つ目が、資料④と⑤のデジタル田園都市国家構想総合戦略の策定についてです。事務局から順に資料を説明していただきます。よろしくお願いします。

■ 議題（1）策定の全体スケジュール（確認）

○事務局 資料①に基づいて説明

■ 意見交換

（会長）

ありがとうございました。とても簡潔にご説明いただきましたが、委員から何かご質問ありましたらお願いします。10月31日の次回審議会が最終となり、途中でパブリックコメントやモニターの意見聴取があるとの説明ですが、みなさんよろしいでしょうか。

ご意見ないようですので、議題（2）について、事務局から説明をよろしくお願いします。

■ 議題（2）第9次豊田市総合計画（案）について（議論）

○事務局 資料②③、【参考資料】に基づいて説明

■ 意見交換

（会長）

ありがとうございました。資料②と③にかかわって、総合計画案が出てきていますので、皆さんからご議論をお願いしたいと思います。総合計画はまちづくりの羅針盤であるということ、計画策定の背景について書かれており、ミライ構想とミライ実現戦略で構成されています。

大きな方向性として、第8次総合計画の将来像を引き継いでいます。そこから多様性、チャレンジとチャレンジによって変化し続けていく、持続可能性を高めていくといったように、拡大や進歩よりは、多様な価値を生み出す、変化し続けることに価値を置くといった価値観になっていると思います。将来の都市構造としては、拠点連携型の都市として書かれていま

す。

ミライ実現戦略では、今後5年間で注力する取組の方向性が示されており、大きな課題として人口減少社会に突入しており、人口構造の変化をどう引き受けるかという視点で、こども起点で考えていくことや、誰もがつながること、まちの基盤をどう整備するのかといったことが問われています。これらの課題を具体的に落とし込んでいるのが31の施策のテーマになっています。事務局から説明があった内容について、委員の皆さんからご意見ご質問ありますでしょうか。

(A委員)

全体を読ませていただいて、これまでの意見を取り入れていただいて有り難いと思います。こども中心について意識して書いていただいたことを感謝します。これまで議論してきた中山間地の自治の形成に関して、これまでの意見を反映した表現にさせていただいたと感じています。

今更ですが、脱炭素に関しては、どちらかという技術力や利便性の進歩により解決していくということが強く感じられます。過去に目を向けると、江戸時代は完全な脱炭素社会であり、自然エネルギーの中で社会を回す循環型社会でした。今でいうサーキュラーエコノミーです。当時の人々のもったいないとか罰が当たるといった価値観が脱炭素社会を形成していました。今後、脱炭素社会を目指す時にこの価値観が必要になります。例えば、こども食堂に代表されるように満足な食事も得られないこどもたちがいて、その人たちが企業や団体とつながっていくことで、コンビニやパン屋、レストランなどのフードロスが解決されます。一方で、大企業のように脱炭素にお金をかけられる企業や、一方脱炭素どころでない民生や中小企業もあります。これらも含めて地域のファクターが脱炭素で連携し助け合い、あるいは一つの廃棄物が次の資源となるような仕組みと関係性を作ることを行政として支援していただきたいです。

その観点で言うと、循環型社会をつくることが評価基準に入ってくるべきだと思います。さらに言えば、SDGs未来都市を謳っているので、LCA（ライフサイクルアセスメント）の概念を全面的に出して、Scope1,2,3を意識して、豊田市全体の資源循環を目指すような視点を書いていただきたいと思います。

こども中心に関連して、他都市で教育委員をやっていますが学校現場とは乖離があると感じています。総合計画と、教育委員会が作る教育大綱や施策の振興計画との位置付けやすり合わせが本当にできているか、ご確認いただきたいです。学校現場は、こどもたちのことを学校が預からないといけないという責任感で動いています。学校現場では、総合計画ではなく文部科学省の通達を優先で考えていきます。この総合計画に書かれている「こども中心」を実現するためには教育委員会も同じ目線で取り組み、カリキュラムマネジメントまで突っ込むぐらいの教育の変換を進め、その中で地域社会と関わりながら学ぶという経験をこどもたちにどう提供していくかということが大切です。そのために、教育委員会と市長部局とのすり合わせ、細かい意見の討論を進めていただくようお願いします。

(会長)

意見にあったように、こども起点と自治が充実していると原案を評価いただいているのですが、脱炭素について技術論に傾いていないか、価値変化や持続可能性を謳っている中で、大きな方向性として循環型社会をめざすために日常生活の価値観を変えていくことについて、表現

をしていくことが必要ではないかといったご指摘だったかと思います。

教育に関しては、教育委員会という特別行政委員会だと一般行政と切り離されてしまうことがよくあると感じています。市の全体計画とのすり合わせしながら、学校というシステム自体が工業社会のシステムでもあるので、今後在り方についても議論していきたいと思います。

（B委員）

脱炭素に関連して、原案に行動変容も書かれているので基本的にそういうニュアンスも含まれていると思います。SDGsについては、経済的に余裕がない方は後回しになってしまうことがあるため、誰一人取り残されないという視点を脱炭素社会の中でどう組み込むかという点が、ポイントだと思います。そこを総合計画の中でどう捉えていくかが気になりました。

Scope3、サプライチェーン排出論の話については、今年度末に日本の開示のルールができると言われています。更に1年後の決算の時期から開示義務が進んでいくことになります。その中で市内の中小企業を含めて取り残されないようにしていくことが大切です。

気候変動については、おそらく5年後、10年後になって、2024年が新たなフェーズに突入したと評価されるようになると思います。この辺りでは熱中症についても誰一人取り残さないという視点が大切です。住宅だけでなく、労働環境も過酷になってきているので、適応の視点もどこかに書かれていると良いのかなと思いました。

（会長）

包摂性、誰一人取り残されない社会を作っていくという観点が必要というご意見だと思います。施策にその観点を入れ込んでいくのか、施策を大きな観点到に溶け込ませるのかで、手法が異なると思います。その点、どのようにお感じになるのか含めて検討頂ければと思います。

（C委員）

毎回同じことを言っている気持ちになる。資料③の総合計画案について、「選ばれるまち」が鍵になっているのかなと感じています。文章でも「変わる」と謳いながらも、どう人口維持していくかということに目を向けているのではないかと感じています。国や地球全体で人口が減少していく中で、今後は今の人口を維持することができないことは明白です。例えば住む以外での関わり方についても触れるなどしないと、「選ばれるまち」のフレーズが人口減少や若者が少ないなどの文章と並んでいると、人口をどう維持していくかという思いが強調されて見えるので、フレーズの場所や前後の表現など文章の工夫が必要だと思います。総合計画案の25ページに将来都市構造のイメージが書いていますが、駅周辺だと利便性の話しか書いていないので、コミュニティとの結びつきによる暮らしやすさなども表現できると良いなと思います。20ページの「行政がリードするまちから多様な主体が作りあげるまちづくりへ」にある「楽しみながら活躍できる環境づくり」という文脈は、市民が活躍するために行政も環境をつくるという話だと思いますが、行政がこれをもとに頑張るからこそ、住民にとってこういう活躍の機会があるということが文章からにじみ出ると良いなと期待しています。

（会長）

新たなことを実施する新たな構想と打ち出しながら、これまでの発想で書かれているのではないかとのご指摘だったかと思います。最後のところは、行政計画として打ち出していく

が、豊田市民のための計画であり、市民がどう我が事として考え、主体的に取り組むことに対して行政がどう支えていくかということが総合計画に必要な観点ではないかのご指摘だったかと思います。他にいかがでしょうか。

(D委員)

今回、ミライ構想、ミライ実現戦略2030の策定に関わり大変勉強になっています。6月15日に開催された「ともにつくとよたのミライ」のライブ配信を拝聴させていただきました。資料⑥参考資料の最後に、その報告内容がありアンケート記述が掲載されています。その意見の中で、都市構造について「新たな将来を見据えたネットワーク拡充が課題」というご意見が寄せられており、私も同感です。来月から1か月の期間でパブリックコメントを実施するとのことですが、総合計画の資料をよく読んでもらわないと意見が出てこないのではないかと思います。ですので、シンポジウムで出た意見も丁寧に吸い上げる必要があると思います。

5年間のミライ実現戦略2030において、取組の方向性として「こどものミライに夢と希望をつくる」ことを掲げています。他都市の参考事例ですが、パリでは、15分都市をめざすということで、自動車を対象とした一連の対策に取り組み、社会的住宅の増加、生活の質の向上に取り組んでいます。具体的には、自動車中心の都市を修復して住民が徒歩や自転車、公共交通機関などの公害のない交通手段を利用して15分以内に必要な施設へ行くことができるといった複合的な地域モデルをめざしています。また、セーヌ川右岸の高速道路を車の通らないリニアパークに改造しています。こどものミライに夢と希望をつくるということであれば、参考事例もあげましたが、わくわく感のある計画になると良いなと思っています。

(会長)

市民意見の聴取の仕方について、中間報告会のアンケートを丁寧に拾い上げる手法もあるということ、都市構造に関しても大胆な発想があっても良いのではないかというご指摘だったかと思います。パリの事例以外にもマドリッドでも自転車を基本として15分の距離で日常生活を行えるようにしていくといった形でも進められています。

(E委員)

資料②2枚目、資料③22ページの将来の都市構造について、「更なるコンパクト」と表現されていますが、表現を工夫した方が良いと思います。少し古い表現かなと感じています。絞り込んでそこにお金を落とすということではなく、多様な選択肢に配慮してという形で、山村と都市の融合、あるいは棲み分けといった多様な選択肢があるということを述べた方が良いと思います。選択と集中についても負の面があると言われていることもありますので、新しい表現に変えた方が良いのではないかと感じました。

(会長)

パラダイムの扱い方に関するご意見で、他にも例えば概要版の拠点連携都市で、「更なる選択と集中」との表現があります。もう少し表現を柔らかくするか、多様な選択肢があるような表現に変えた方が良いのではないかというご指摘だと思います。答申全体に関わる内容かと思うので、多様性を尊重する形で表現できないかということです。

(F委員)

取組目標②について、私の専門の観点から4点申し上げたいと思います。

36ページ取組目標②(1)の「まち全体がこどもの成長を支えている」とありますが、公

的な施策だけが並んでいます。つながりの中で安心して暮らすという観点でいうと、信頼できる大人と関わりがあるとか、地域でこどもを育てるといった視点が大切です。取組目標①でも表現されていますし、資料②では居場所の充実が書かれていますが、答申案ではこの表現が無くなっています。こういうことの方が、地域でこどもを支えることにつながると思います。

2点目、こどもの支援について、国ではこども家庭庁が発足し、国の動きには評価できる面もありますが、厚生労働省の福祉施策が縦割りになってしまう懸念があります。豊田市は包括支援体制があり先駆的に取り組まれていることもありますので、これまでの取組と重ね合わせる形として一体的に取り組むとこで、文中で書かれているような包括的な支援を具体化、充実化してほしいです。

3点目、45ページにあるような「緩やかなつながりの選択肢を増やす」のは良いと思います。もちろん従来の地域のつながりも大切で、それに加えて新たなつながりを作っていくということだと認識しています。答申の中で「安心」「自分らしく」といった言葉がいくつか使われており安心して暮らせる基盤は重要ですが、地域共生社会の観点でいうと、「楽しむ」や「自分らしく」といった自己実現に関連するような表現が良いのかなと思います。取組目標②についても、誰もがつながり合いの中で安心して「自分らしく」とか「楽しく」という表現を入れておく方が良いのかなと思います。

最後に、今研究を行っているところですが、包括的な支援体制を整備していく中で、自治体職員のマインドチェンジが重要だと提言しています。行政職員が個人としても組織としてもこれまでの境界を越えてチャレンジする意欲が持てることが重要だということです。40ページに「チャレンジ意欲を持っている市民の割合」と書かれており、市民にチャレンジの意欲を求めることも重要ですが、果たして行政職員がチャレンジや変化の意欲を持っているかという点も評価の視点として入れてみると、総合計画の実効性が高まるのではないかと思います。

(会長)

取組目標②に関して、記述内容が公的にどう保障するかという内容に偏ったように感じるが、市民がどのような関係をつくっていくつつ、こどもの自己肯定感を高めていけるようにするのかという記述が必要ではないかというご指摘だと思います。2つ目として、安心というキーワードが入っているが、自己実現に向けて一人ひとりの人生を支援していくことが大事ではないかというご指摘だと思います。3つ目として、行政職員のマインドのあり方についても評価視点として加えてみたらどうかというご指摘だと思います。

(G委員)

多様性、自分らしくといった話が出てきたと思いますが、それを実現するためには交通が重要だと思います。交通に関する記述について、都市の形やまちづくりとの関係もしっかり書いていただいていると思います。見せ方について気になりましたが、資料③57ページについて、都市間拠点間連携を支える交通ネットワークの強化ということで書いており、交通とは「幹・枝・葉」で構成されていますが、ここでは都市の交通の発展を支えていくような内容として幹と枝に関する内容が書かれています。一方で、地域で一番問題になっているのは葉の部分であり、ラストマイル問題やバス停まで歩けない方の増加、免許返納後のドアツードアのサービス対応が求められています。この点は、56ページの一番下に住民共助の移動支

援について書いてあります。文脈として、交通の幹枝と葉の部分が離れているので読み切れるかと心配しています。56ページの上段では、インフラのことが書かれているので、文章としておさまりが悪いかなと思っています。交通に関する記述の構成をもう少し検討してほしいです。

2点目、CO2削減の中の2割が交通部門、そのうち自動車の割合が多くなっています。CO2削減のために交通手段の転換が求められており、公共交通への手段転換が検討されています。しかし、豊田市の総合計画にはその手段転換について一切書かれていません。公共交通ネットワークや鉄道の強化については書かれているので、そこで手段転換について書いても良いと思います。

3点目、公共交通を使うといろんな効果があります。その一つが健康につながるということで、公共交通機関を使うには体力や頭を使い、知力も体力も養うことができます。ただ、総合計画では、全体を通して健康についてあまり触れられてないのではないかなと思っています。

(会長)

1つ目は、交通の「幹・枝・葉」に関する「葉」の部分が重要となると思われるが、葉の記述が薄いのではないかなというご指摘だと思います。2つ目がCO2削減に関して、豊田市には自動車という特性があるかもしれないが、公共交通機関等の活用についての議論をしておくべきではないかなというご指摘だと思います。3つ目は、公共交通機関を使うと健康にも良く、その意味で、暮らし楽しむということであるならば、健康への記述あってもよいのではないかなというご指摘だと思います。

(G委員)

1点目については、交通に関する記述が薄いというよりは、書いてある場所の収まりが良くないということです。健康に関しては全体を通して健康の記述が少ないという意味です。

(事務局)

G委員に言ってもらったように、葉の部分まちづくりに入れようという意図で組み込んでいます。その点が分かりづらいというご意見を頂いたので、もう一度考えてみたいと思います。

健康に関しては、第8次総合計画では超高齢社会に対してかなり力を入れて取り組んできたと思っています。第9次総合計画でも引き続き、超高齢化社会に対して健康について力を入れて取り組んでいくかという点ではそこを重視するのではなく、今回はこどもを重点的に意識して全体を描いているので、健康に関する記述が弱いのはその通りだと思います。

(G委員)

記述が弱いのはいいが、記述がないのは問題かと思っています。

(事務局)

その点は、検討します。

(H委員)

こどもを中心ということで良くまとめていただいたと思いますが、変化を迎えている時代ということで人口減少の局面に入っていく事が計画の前半部分で強調されていると思います。一方で、資料③43ページの子育て支援について、施策として理解はできますが出生数が指標に上げられています。出生数の推移はコロナ前から下降トレンドに入っている中で、出

生数の維持は大胆な目標だと思います。こども関連の指標は、合計特殊出生率など、他の選択肢もあったと思いますが、出生数は量の話、規模を維持することにつながってしまいます。これはあえての選択なのかその点が気になりました。

E委員の指摘にあったように、更なる選択と集中の表現について、全体の雰囲気と違和感があったので変更されてはどうでしょうか。

資料③53ページの「女性などの多様な働き方の選択肢の充実」と書いているが、表現としてもう少しコンパクトにした方が良いのではないかと思います。その下書いている「多様な働き方、生き方の創出」について、暮らしている人が多様に働いたり生きたりするために選択可能な社会に変えていくことが重要だと読み取っているのですが、文章では創出が重要な視点ですと書いているので、違和感があります。

(会長)

1つ目は、指標が出生数になっているが妥当なのかというご指摘だと思います。2つ目は、示したかった価値観が、記述する表現の仕方ですりずつ中身としては違う理解を導いてしまわないかというご指摘だと思いますので、検討をお願いします。

(G委員)

議論の中で、更なる選択と集中が批判的に捉えられているのではないかと感じています。何を選択と集中するのかというと、土地利用のことだと思います。これから人口が減っていく中で、これだけ広がってしまったインフラを全部支えることはできないので、都市経営的に選択と集中せざるを得ないということです。都市部だけでなく山村部も同じ状況であり、分散型の連携型都市構造ということでもあります。土地利用において、選択と集中は進めていかないと今後行政だけでなく市民みんなの首を絞めてしまうことになります。

(会長)

ご指摘の通り、都市計画や土地利用については、選択と集中はあるべき姿です。ただ、人生の在り方や総合計画のめざしていく方向性と違わないように書きぶりを注意していただきたいと思います。

(I委員)

取組目標③の産業中枢都市として深化し続けるということで、新たな産業創出や市内事業者の社会への適応をあるべき姿として記述するのは、望ましいかなと思います。具体的な施策として、市内事業者の持続可能性について、デジタル化、生産性向上、省人化は書いてある通りかと思います。地元の信用金庫として心配しているのは、豊田市は自動車のまちであり、大手企業は増収増益で過去最高となっていますが、二次以下のメーカー530社については、7月時点で54%が営業赤字であり、物価高騰や人件費が上がっていることが影響していますが、価格転嫁をするには、エビデンスを作る力が不足しています。自動車産業は電動化で将来的に車の部品の素材がアルミや強化プラスチックに変わっていきます。高度な技術が求められるようになり、製品の不良率が上昇して赤字になることや、対応できる技術者がいないなど電動化に対応していく中で影響を受けています。加えてカーボンニュートラルの中で、加工工程でCO2の削減も求められているので、いくら増収になっても減益の影響から脱出できない状況にあります。半数以上のサプライヤーが赤字という現状を見ると、今後事業を継続できるかと心配しています。

運輸業についても2024年問題で厳しい状況になっており、6割以上が営業赤字になってい

ます。実態として、市内事業者をどこまで支えていくかということをもう少し深掘していかないと、表向きの生産性向上だけでは立ち行かないと思います。計画としてどう変更してほしいということではなく、実態としてこのような状況があることを御承知おき頂くとありがたいです。

(会長)

市内事業者の社会変化への適応に関する取組として、今の段階でも事業者はかなり厳しい状況であり、それでも事業者の持続可能性を高めることができるのか、実態を押さえた上で計画について考えていただきたいというご指摘だと思います。

(J 委員)

これまでの会議で、障がい者にも目を向けてもらっても良いのではないかと発言してきました。要介護、要支援の認定数が1万7千人ほどおり、医療介護に関わる方が同数程度いるとして、10人に一人は医療介護に関係しています。そのような状況である中で、計画の中でうまく表現されていないと思っています。つながるとか、上手くファクターとして埋まっていくと良いと思います。

今後人口減少が進む中で、これまでとは次元が変わっていきます。人は変化に弱い、変化したくないといった意識がある中で、羅針盤として9総を作っていくのであれば、その部分が提示されていないと羅針盤として機能していかないので、全体が網羅されたうえでの羅針盤であるべきだと思います。市民の尊厳とか人権に目を向けることがもう一押しあると良いかと思っています。つながるとか変えるというところからの発想の転換が必要だと思います。

(会長)

羅針盤ということであれば、特に市民の尊厳や人権のようなものをどう記述していくのか、特に医療介護に関わる方々が総人口の1割という状況の中で、そういう方々に関する記述が薄いのではないかと、全体として市民の尊厳や人権を基本にしながら羅針盤としての機能を果たせるような総合計画であってほしいというご指摘だと思います。

(K 委員)

指摘のあった健康について、言葉としてはあまり出ていないかもしれませんが、身体的・社会的な健康を充実させることはすごく書いてあります。社会的に元気である、健康であるという言葉を入れていただくと現行計画と継続性が出るかと思っています。社会的な健康に関連する記述は充実しているのでそこに健康というワードを入れると良いかと思っています。身体的な健康については、トーンダウンしていますが、今回の総合計画の方向性としては問題ないかと思っています

指摘のあった学校教育との関係性は一番気になりました。こどもの話となると、厚生労働省と文部科学省が関係しますが、厚生労働省が寄与する部分が大きいです。親や保護者からすると、こどもとなると、学校現場をはじめに思い浮かべます。しかし、総合計画と教育現場に関連する指針や計画が整合を図って連携できていないのかと思います。総合計画で書いている方向性を教育現場にどう落とし込んでいくかが十分に表現できていません。地域や社会でこどもを育てるという思いが、学校現場とずれてはいけけないので、すり合わせしてほしいです。そこを丁寧にしないと結局はこどものことは教育委員会にどうにかしてくれという事になってしまう。社会や地域でこどもを育てるという思いがおまけ的になってしまうのは残念に思います。

指標について、38ページで「自分には良いところがある」「学校に行くのが楽しいと思う」と思う割合について書いているのは良いなと思います。ただ、いろんな所に文化芸術に触れるという記述がありますが、機会を増加するには学校では簡単そうで難しいと思うので、そこに関連する指標があると具体性があり施策としても打ち出しやすいと思います。

(会長)

健康という言葉はないが、精神的な関係性という健康は出ているので、書きぶりを工夫してはどうか。学校との関係がどうかということ。こども関連の指標。学校が弱いところとして文化芸術に触れてはどうか。美術館、博物館もできた。学校で触れられていないものに触れているという事も指標にできるのではないかとのご指摘だと思います。

(L委員)

教育委員会の教育委員もしていますが、現在検討中の教育大綱についても市長と話し合いを始めています。印象として、豊田市の教育大綱と総合計画の内容と大きな隔たりはないと思っています。豊田市らしさというものを中心に据えて、教育大綱を考えていったらどうかという方向で話し合いをしているところですので、今日出た意見も次回の教育大綱の審議会で反映したいと思います。

国際交流協会からの立場として意見をすると、意見集約のシートについて、外国人に対しての文言が少ないと意見を頂いていると思いますが、私としては、外国人という定義が難しい時代に入ってきたと認識しています。日本人でありながら、外国にルーツがある方、外国人でありながら日本生まれの方なども増えてきているので、あえて外国人と書くことで対象が限定的になってしまうのは良くないと思います。多様性という言葉の中に外国人も含まれているので、会議の中で多様性という言葉が多いという意見もありましたが、私としては多様性の表現を多用することは大賛成です。外国人の方が一般の市民として、担い手となってもらって市民として自己実現をしていく場とも書いてあるので、その点も大賛成であり、実現するには具体的な施策が必要になってくると思いました。

(会長)

教育大綱のほかに、教育振興基本計画を作ることが法的に義務付けられています。豊田市では教育行政計画として策定中であります。教育大綱と総合計画にあまり齟齬はないとのことでしたが、教育行政計画と総合計画にはズレがあるという印象を持っています。また報告ができれば、次回お話ししたいと思います。

(M委員)

働く者の立場からお話しをすると、働く皆さんは通勤がストレスになっているので交通インフラの話は重要だと思っています。交通インフラの整備が十分であれば、障がい者や高齢者の方も働き手としての数に入ってくると思います。

中小企業でも担い手や働き手不足が深刻であり、どう働き手を確保するのかというと2つしかないと思っています。今まで働かなかった人に働いてもらうか、一人ひとりの生産性を上げていくこと。そのために、何をすると働く場所としてのまちの魅力があがるのか、書いてもらっていると思いますが、もう少しわかりやすく表現してもらえればと思います。

また、今後の方向性として豊田市は観光ではなく、産業のまちとして取り組んでいくという理解で合っていますか。

(事務局)

産業の中にも、観光を含んでいます。

(会長)

今の発言にあった、「観光ではなくて産業で」といったご発言はどういう意味でしょうか。働き手を観光業ではなく、地場産業で確保していくという意味でしょうか。

(M委員)

そうではなくて、計画の中で観光という表現がないと感じています。そういう意味で、観光のまちとしての方向性ではなくて、産業のまちかという意味での発言です。

(事務局)

産業の中にもいろいろなものがあります。観光として大々的な記述はありませんが、今後観光も大きなまちの資源になり得ると思っています。山間地はまちの魅力を持っており、魅力を磨き上げることで生業として伸びると思っているので、まちづくりとして入れています。施策では分かりづらいところがあるかもしれないので、今後の事業や進め方で見せていければと思います。

(N委員)

初めての参加ですが、それなりにいい言葉を入れていただいていると感じています。選択と集中は今あまり使わないと思うので、そこは直していただきたいと思います。

(会長)

文言について、限定的に使いながら全体のイメージを損なわないように注意をしていただきたいご指摘だと思います。

(O委員)

「つながるつくる暮らし楽しむまち」とありますが、何となくわかるようなフレーズだが実感が伴わないかなと思います。暮らし楽しむ場面などに遭遇するとまちの愛着が生まれると思うので、そういうことが具体的にできると良いかなと思います。

ミライ実現戦略2030について、「多様で緩やかなつながり合い」と書いてありますが、ほどよいつながりはどうやったらできるのか、何のためにつながるかということが大事だと思います。地域でこどもを育てていくために、つながるということが大切だと思うのでそういった表現があるとつながりあえるイメージが持てるのではないかと思います。また、コロナ後の新たな地域づくりを進めていく、新たなスタートラインに立っているという事を謳えるの良いなと思いました。

(会長)

将来像が、具体的にイメージができるものであると良く、例えば「一緒になってこどもたちを育てていく未来を作る」というイメージは具体的に分かるようなケースになるのではないかとご指摘だと思います。さらに全体として、コロナ後の新しいまちづくりを進めることについてもメッセージ性が出るの良いのではないかとご指摘だと思います。

(P委員)

ミライ実現戦略2030の取組目標③(3)は、「女性など」で始まっていますが、「女性など」という表現が古いのではないかと思います。気になる人は気になるのではないのでしょうか。資料③で国籍や障がいの有無等と詳細に書かれているので、女性に絞ったものではなく、働きづらさを抱える人という事だと思います。気になる人が私以外にもいるのであれば、女性などとの表現は変えた方が良いと思います。

つながりという表現がよく出ていて、計画を作る段階ではつながりがあれば解決できると思うのは分かりますが、つながりは簡単にできるものではないので、そこも忘れずに計画を作してほしいです。

(会長)

誰もが希望する働き方を実現しているというところに「女性など」という言葉が入っているが、むしろ多様な生き方ができる社会を作っていくことを考えれば、表現の仕方を工夫する必要があるのではないかというご指摘だと思います。つながりについても、前提的に使われていると思うが、つながりを作る大変さも表現しながら全体を整えられないかというご指摘だと思います。

(J委員)

「つながるつくる」の文言について、市長が前から幸福寿命を延ばすと言っていますが、幸福という言葉を入れると、尊厳も表現できるのかなと思います。例えば、幸福を感じられる豊田市など幸福という言葉が入るとしっくりくるのではないかと思います。

(会長)

将来像に価値の方向性として「幸せ」や「幸福」という言葉を入れたらどうかというご指摘だと思います。私が関わっていた自治体では、幸せを考えるという表現が入っており、幸せのありかたは個人個人で違いますが、自分が幸せになるために他人の幸せも考えなければいけないということでもありました。価値のあり方や方向性を示されたらどうかというご指摘のため、ご検討いただけたらと思います。

(G委員)

指標について、取組によっては、市民意識調査での回答割合になっているものと整備目標のように数値目標となっているものなどがあります。指標を設定した考え方を教えてください。

(事務局)

基本的には、状態的な指標を設定したいと思っています。量を達成するとどう感じるかということの直結が見えにくい反面、進捗は把握しやすいということがあります。

総合計画に掲げる大きな目標については、状態的な指標として、毎年設定する施策の進捗管理では、もう少し細かい指標を出していきたいと思っています。

(G委員)

状態指標とは、アウトカム、成果指標ということで良いでしょうか。

(事務局)

その通りです。

(G委員)

アウトプットは整備した量のことで、アウトカムはその効果を測定する量のことでこの2つの指標があると良いなと思っています。アウトカムは成果を測りにくいので、意識調査結果に頼ることが多くなります。しかし、意識調査の結果はその時々为社会情勢に引っ張られてしまうため、経年変化を見るときにブレが大きくなり、成果指標としては偏る懸念があります。そのため、アウトプットとアウトカムのバランスを上手く入れていただくと良いと思います。

(事務局)

ご指摘いただいた通りだと思います。毎年見直ししながら、今の状況に合わせていくなど、施策見直しも含めてやっていくべきだと認識しています。本計画としてどこまで指標を設定するのはもう少し議論させていただきたいと思います。

（C委員）

「女性など」の表現について議論がありましたが、女性の働き方や女性だけではなく、社会全体の最適解がないと思っています。例えば、女性が産休育休を取得した結果、同僚の男性に仕事が振られて、男性が大変になるなど歪みが生じているのも現状です。

「女性など」の女性の削除や表現の変更は、悩ましいところではありますが、変化の大きな時代だからこそ、対応できるような多様なプレイヤーによる多様な働き方を可能にする制度や機運づくりを進めるといった文言があると良いと思っています。

（事務局）

「女性など」の表現について、ご意見頂いていますが、ここではあえて意識して書いています。豊田市の人口構造として、20～39歳の男性が多いということもあり、女性が生きやすい、働きやすいまちにしたいという思いがあります。その点を強調することによって、女性は人口増加のために必要だと考えているのではないかとといったように捉えられてしまう可能性もあるかもしれません。豊田市がどんな方にとっても働きやすいという環境にしていくために、この5年の計画では「女性」という言葉をあえて入れてはどうかということで提案していますが、悩んでいます。

（会長）

計画として上手くまとめていただいていると思っています。委員発言にもあったように、価値や尊厳を基本にしながら、全体の構想をまとめられればと思っています。9総の原案については、ほかにご意見なければ次の議題に移りたいと思います。

■ 議題（3）豊田市デジタル田園都市国家構想総合戦略の策定について

○事務局 資料④⑤に基づいて説明

■ 意見交換

（会長）

デジタル田園都市国家構想を国が策定して、各自治体にも戦略策定が求められています。今回の総合計画の中身を反映しながら、豊田市版の総合戦略として作成していきたいということです。

（G委員）

総合戦略について、総花的になってしまい何がポイントなのか見えにくいと思っています。重点的に設定しているものはありますか。

（事務局）

総合計画では毎年進捗確認を行っていきますが、この総合戦略では総合計画の内容をベースにしながら、今後5年間でいろいろと状況が変わっていく中でも国の補助金申請ができるように、総花的に書くことを意識しています。そのため、重点ではなく総花的な記述にしています。

(G委員)

理解しました。その中で市として力を入れてこの5年間で強化したいものはありますか。

(事務局)

総合戦略としては、ありません。

(会長)

デジタル技術の活用について、ご説明をしていただきたい。

(事務局)

誰ひとり取り残さないデジタル環境を整えるという点が国の方で大きく変わった改訂の部分です。豊田市ではこれまで将来都市構造の中で、ネットワークについて道路と公共交通の2本の柱を記述していましたが、今回は「情報通信」を含めた3つの柱にした点が大きな変更点であり、国の流れを汲んでいます。まだ、デジタルを活用して何をしていくかという施策までは伴っていません。

(会長)

他にご意見ないでしょうか。説明にあったように総合戦略について、今回の9総の議論を組み込んで反映していくということで理解いただいたということでよろしいでしょうか。では、本日の議論は以上となります。最後に太田市長、一言お願いします。

(市長)

最後の段階とはいえ、変える部分は変えていくということで、今回のご意見を踏まえてまた検討していきます。取組方針①、②で大胆に括っています。こどもにフォーカスしたのは、こどもにとって幸せなまちはすべての市民にとって幸せなまちという前提があるからで、取組目標②は膨らませることが可能かと思っています。

将来都市像について、いろいろご意見をいただきました。ミライ実現戦略 2030 は、豊田市はどのような方向を目指しているのか、どんなまちになれば良いのか、議論をしても中々答えはでません。ただ、今の豊田市が成り行きでこのまま行って、市民が幸せになるとは思えないです。私がまちづくりについてよく話すのが、豊田市の里山の暮らしの中にヒントがあるということです。豊田市の里山は、教育も医療も雇用もある程度安心できる環境になっており、都市部にも近く山の楽しみもあって、昔のコミュニティもあります。豊田市の里山のエッセンスを抽出していければ具体の将来都市像のイメージできると思います。エッセンスが抽出できれば、多くの指標はそこに照らし合わせてどうなのかという評価が可能になります。そういった視点で検討できればと思います。計画の手法で、20××年、豊田市民がこういう暮らしをしています。そのために2030年どうしますかというストーリー作りもあります。次のステップに向けて、いいものにしていこうと思います。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました。今の市長の発言や今回の議論も踏まえて、次回の議論を進めていきたいと思います。では、進行を事務局にお返しします。

○事務局

■ 企画政策部長あいさつ

長時間に渡りご協議いただき、ありがとうございました。ご意見がありましたら、今週中

に寄せていただいたものはパブコメに反映していきたいと思いますので、事務局までお寄せください。

■ 事務局連絡

○事務局 次回審議会日程
 : 令和6年10月31日開催

(終了 午後3時56分)